

●プレゼンテーション

ポクテム インフルエンザ A/B の改良検討

○一口 毅(シスメックス株式会社 試薬開発本部), 斉藤 紀幸, 落合 浩二, 高浜 洋一, 浜口 行雄

近年、インフルエンザウイルス抗原を簡便、迅速に検出可能なキットが各メーカーから発売され、インフルエンザを他の風邪症候群と臨床現場で区別できるようになった。これらのキットでの測定により、患者さんが来院されたとき、インフルエンザか否かをすぐに検査し、患者さんが帰るまでに投薬などの治療方針の決定ができるようになった。その影では病院スタッフが慌ただしく検査を行っており、冬の繁忙期には多忙を極め、キットには操作の簡便さが望まれている。

今回、我々は 2003 年 10 月に発売したインフルエンザウイルス抗原検出キットであるポクテム インフルエンザ A/B の操作法をさらに簡便にするための改良検討を行った。また、2002/2003 年のインフルエンザ流行期に実施した自主点検試験と同様の試験を 2003/2004 年の流行期に再度、主体的に実施した。

改良のポイントは

1. 有効期間の 5 ヶ月から 12 ヶ月への延長
2. フィルターノズルの径を大きくし、粘度の高いサンプル

でもスムーズにろ過できるようにした。

3. 試料の滴下数を 7 滴から 5 滴にしたことである。

改良検討の結果、フィルターノズルの径拡大ではキットの反応性を損なわずに、操作がスムーズになる結果が得られた。また、ポクテムは従来品でも抽出試料を滴下するだけの非常に操作の簡便なキットであるが、滴下数を低減することで繁忙期の検査現場でさらに有用となると考えている。

一方の自主点検の結果においては 2003/2004 年のインフルエンザ流行期は A 型の流行が主で、B 型については十分に調査できなかったが、2002/2003 年の流行期の自主点検の結果や薬事申請時のデータと同等の成績が得られた。

以上のようにポクテム インフルエンザ A/B は、有効期間の延長および臨床現場での操作性をさらに簡便にしたことにより、一段と使い勝手が向上したと考えている。

連絡先：078-991-2212